

幕末 / たまほこのひ可里 / 大本 関係年表

※日付は明治5年の改暦までは旧暦で表記。それ以降は新暦で表記。

天保2年(1831)	6月14日 孝明天皇、生まれる。
天保6年(1835)	2月19日 熾仁親王、生まれる。
天保7年	12月16日(1837年1月22日) 出口直、福知山で生まれる。
天保13年(1842)	3月25日 旭形亀太郎、大阪で生まれる。
嘉永6年(1853)	6月3日 黒船来航。ペリー率いる4隻の軍艦が浦賀に現われる。 翌年3月31日、日米和親条約が締結され、鎖国政策が終焉を迎える。
安政5年(1858)	6月19日 幕府は孝明天皇の反対を押し切り日米修好通商条約(不平等条約)を調印。以後、安政6年にかけて幕府による尊皇攘夷派の弾圧が行われ、吉田松陰らが処刑される(安政の大獄)。
安政7年(1860)	3月3日、大老・井伊直弼が暗殺される(桜田門外の変)。幕府の権威が大きく失墜したため、公武合体策が進められる。その結果、孝明天皇の妹・和宮は、熾仁親王との婚約を破棄させられ、将軍・家茂と結婚することになる(和宮降嫁)。
文久元年(1861)	和宮は10月20日に京都を発つ。総勢3万人の行列は50kmもの長さとなり、11月15日に江戸到着。翌年2月11日結婚。
文久3年(1863)	8月18日 八・一八の政変。長州藩を中心とする尊皇攘夷派は京都から追放される。
元治元年(1864)	7月19日 禁門の変。長州藩は京都で挙兵するが敗北。このとき孝明天皇は、切紙神示・経繪書・錦の御旗・数表を、旭形亀太郎に託し、宮中の外に出す。
慶応2年	12月25日(1867年1月30日) 孝明天皇崩御。
慶応3年	12月9日(1868年1月3日) 王政復古の大号令・明治新政府発足(熾仁親王が政府総裁に就任)。
慶応4/明治元年 ～2年(1868～9)	戊辰戦争。長州・薩摩を中心とする新政府軍が、会津・桑名等の旧幕府軍に勝ち、名実共に日本の新政府となる。この時、アメリカ南北戦争(1861～5年)の集結により余った銃器が数万挺、欧州の武器商人によって日本に輸入され、政府軍・幕府軍双方で使用される。
明治元年(1868)	3月9日 佐藤紋次郎、愛知県で生まれる。
明治3年(1870)	7月12日 上田喜三郎(王仁三郎)、亀岡で生まれる。(戸籍上は明治4年生まれ)
明治5年(1872)	改暦。12月2日の翌日を6年1月1日とする。
明治24年(1891)	春 佐藤紋次郎は名古屋で旭形亀太郎と出会い、弟子になる。
明治25年(1892)	2月3日(旧1月5日) 綾部で出口直に良の金神が帰神。
同年	8月17日 亀太郎は錦の御旗を宮中に返納する。

同年	月日不明 亀太郎は紋次郎に切紙神示を伝授する。(場所は名古屋)
明治26年(1893)	10月 亀太郎は伊勢神宮の大宮司(鹿島則文)に孝明天皇の御神号を「玉鉾大神」と命名してもらう。(このときの神宮祭主は熾仁親王)
明治26年か27年	佐藤紋次郎は名古屋の県庁で、孝明神社の敷地の登記に行く。
明治28年(1895)	1月15日 熾仁親王、帰幽(59歳)。
同年	4月1日 桓武天皇を祭神とする平安神宮が創建される。
同年	月日不明 亀太郎は武豊に移り住む。
明治29年(1896)	月日不明 亀太郎は紋次郎を連れて綾部の出口直を訪ね、孝明天皇の御神名を「たまほこの神」と命名してもらう。
明治31年(1898)	3月1日 王仁三郎は亀岡の高熊山で一週間の霊的修業。翌年、綾部に移住し出口直と合流。
明治32年(1899)	11月28日 玉鉾神社建設の許可が下りる。
明治33年(1900)	1月 亀太郎は玉鉾神社の神職に補せられる。
明治34年(1901)	1月元日 亀太郎は死を予期して遺言。紋次郎に、経繪書・150円・8本の霊竹を預け「皇紀2600年に70歳になる男に渡せ」と命じる。
同年	3月11日 旭形亀太郎、帰幽(61歳)。
大正7年(1918)	11月6日 出口直、帰幽(81歳)。
大正10年(1921)	『神の国』1月号「掃き寄せ集」に、切紙神示で現われた二大勢力激突の予言が掲載される。
同年	2月12日 第一次大本事件。10月18日 霊界物語著述開始。
同年	10月20日 本宮山神殿破壊開始。(二大勢力激突の予言が成就)
昭和7年(1932)	3月 土井靖都著『大本の出現とそのあかし』発刊。切紙神示が紹介される。
昭和10年(1935)	12月8日 第二次大本事件。王仁三郎は投獄される。
昭和11年(1936)	春 紋次郎は警察の命令で経繪書(御宸筆)をやむを得ず焼却。
昭和15年(1940)	10月19日 皇紀2600年を記念して平安神宮に孝明天皇が合祀される。
昭和17年(1942)	8月7日 王仁三郎は6年8ヶ月ぶりに出獄して亀岡に帰郷する。
同年	9月7日 紋次郎は王仁三郎と面会。
昭和18年(1943)	8月25日 紋次郎口述『たまほこのひ可里』完成。
昭和20年(1945)	8月15日 敗戦。大日本帝国の滅亡。「出口ナクセバ日本はホロブ」の予言が成就。
昭和21年(1946)	3月2日 佐藤紋次郎、帰幽(77歳)。
昭和23年(1948)	1月19日 出口王仁三郎、帰幽(76歳)。
昭和39年(1964)	1月9日 土井靖都、帰幽(81歳)。その後、出口和明は土井宅を弔問して、未亡人から遺品をもらう(後に見つかる「玉手箱」は遺品の一つ)。
平成10年(1998)	1月19日(王仁三郎50年目の命日) 熊野館で「玉手箱」の中から『たまほこのひ可里』等が発見され、孝明天皇の遺勅が世に現われる。